

# コロナ禍における成人看護学実習 I（慢性期看護実習） ～臨床実習指導者と教員の協働による実習指導の取り組み 第1報～

大鳥 和子<sup>1)</sup>, 鈴木 由紀子<sup>1)</sup>, 駒井 里枝<sup>2)</sup>, 齋藤 みどり<sup>1)</sup>  
了徳寺大学・健康科学部看護学科<sup>1)</sup>, 津田沼中央総合病院看護部<sup>2)</sup>

## 要旨

今般の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大を背景に、医療提供体制の維持及び感染対策の観点から、看護学生の実習受け入れが困難となった病院がある。それにより、臨地実習<sup>\*1</sup>の時間短縮や中止等となった看護師等養成機関がある。このような状況から、A看護系大学では2020年度の成人看護学実習 I（慢性期看護実習）を、臨地実習主体から学内実習主体へと変更した。本来の実習目的・目標を達成すべく方法であること、臨床実習指導者<sup>\*2</sup>と教員の協働による実習指導を重点課題として、学内実習を組み立てた。具体的には、①病棟実習前の病棟オリエンテーション、②病棟実習、③入院患者の看護過程の展開、④学内における看護実践、⑤個人発表の5項目の実習指導について臨床実習指導者と協議し、実施している。本稿は、学内実習主体とする成人看護学実習 I（慢性期看護実習）における実習指導の取り組みを報告する。

キーワード：新型コロナウイルス感染対策，成人看護学実習 I（慢性期看護実習），臨床実習指導者，教員，協働

## Adult Nursing Practice I (Chronic Nursing Practice) in Covid-19 pandemic ～ Efforts for practical training in collaboration with clinical training instructors and teachers First report ~

Kazuko Ohtori<sup>1)</sup>, Yukiko Suzuki<sup>1)</sup>, Satoe Komai<sup>2)</sup>, Midori Saito<sup>1)</sup>  
Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Ryotokuji University<sup>1)</sup>  
Tsudanuma central general hospital Nursing Department<sup>2)</sup>

## Abstract

With the recent spread of the new coronavirus infection (COVID-19), it has become difficult for some hospitals to accept nursing students for practical training from the viewpoint of maintaining the medical care provision system and controlling infection. As a result, there are training institutions such as nurses that have shortened the training time or canceled the training. Under these circumstances, A Nursing University changed the adult nursing practice I (chronic nursing practice) in 2020 from clinical practice to on-campus practice. It should be a method to achieve the original purpose and goal of the training. On-campus training was constructed with the priority task of training guidance in collaboration with clinical training instructors and teachers. Specifically, (1) ward orientation before training, (2) ward training, (3) development of nursing process for inpatients, (4) nursing practice on campus, and

\* 1 「臨地実習」とは、基礎看護学教育における臨床において看護学生が患者を受け持ち、看護ケアの実践を行う実習形態をいう。

\* 2 「臨床実習指導者」とは看護学生が患者を受け持ち、看護ケアを行う際、病棟に配属された臨床実習指導者研修を受講した看護師で、実習中、看護学生の指導を業務とする。

(5) individual presentation of five items of training guidance are discussed and implemented with clinical training instructors are doing. This paper reports on the efforts of practical training guidance in adult nursing practice I (chronic nursing practice), which is mainly based on on-campus training.

Keywords : Countermeasures against new coronavirus infection, Adult Nursing Practice I (Chronic Nursing Practice), Clinical training instructor, Teacher, Collaboration

## I. はじめに

世界保健機構（WHO）は、2020年1月31日（日本時間）に中華人民共和国湖北省武漢市における新型コロナウイルス関連肺炎の発生状況が、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」に該当すると発表した<sup>1)</sup>。2020年3月11日には、新型コロナウイルスによる感染症が拡大し、パンデミックと言われる世界的大流行となった<sup>2)</sup>。

政府は、新型コロナウイルス感染症が日本においても流行した事態を踏まえ、新型コロナウイルス感染症を新型インフルエンザ等対策特別措置法に規定する新型インフルエンザ等とみなし、2020年3月28日に基本的対処方針を明言した。国民の生命を守るため、水際での対策、蔓延防止、医療の提供等の対策が講じられてきた<sup>2)</sup>。具体的には、人から人への飛沫感染や接触感染を予防するため、基本的な感染予防の実施や不要不急の外出の自粛、3つの密（密閉・密集・密接）を避けることを推し進めてきた<sup>3)</sup>。

しかしながら、日々新規感染者や死亡者が確認され、2020年9月1日までの国内での新型コロナウイルス感染症の感染者は68,392例であり、死亡者は1,296名と報告されている<sup>4)</sup>。新型コロナウイルス感染拡大の終息の見通しは、未だ不透明な状況である。こうした状況から、「感染しない」、「感染させない」といった意識をもち、感染予防行動を取り入れながら日常生活を送ることが必要不可欠となった。

教育分野においても感染対策を講じた教育のあり方が求められるようになった。文部科学省は、面接授業が実施できない状況が長期化することを鑑み、自宅における遠隔授業や、課題研究等を行うなど、弾力的な運用も認めた<sup>5)</sup>。教育機関に対して、周辺の感染状況を把握し置かれた環境のなかで、適切な感染予防策を実施するとともに、独自の教育目標を達成すべく工夫を凝らした教育方法を検討し実施することを委ねたと言えよう。

看護基礎教育における臨地実習は、知識・技術を看護実践の場で適用し、看護の理論と実践を結びつけて理解する能力を養う場である<sup>6)</sup>。看護学生にとって初めての看護体験は、実感した学びになり得る。それにより、専門職になるための目的意識・職業意識を明確にしながら学習意欲をもつ。キャリア形成していくうえで重要な学習活動である。

しかし、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大により医療提供体制の維持及び感染拡大の予防の観点から、実習受け入れ制限を余儀なくされた実習施設があり、それによって看護学生の看護実践活動の場が制限され、実習時間短縮や実習中止等となった看護系大学がある<sup>7)</sup>。臨地における学修の担保ができない場合、つまり実習受け入れ困難な実習施設がある場合の対策として、臨地実習の代替策を早急に検討する事態となった<sup>8, 9)</sup>。

A看護系大学の成人看護学実習 I（慢性期看護実習）は、看護学科3年生を対象にした3単位（135時間）の専門科目である。看護実践能力の基礎力を培う重要な科目の一つである。看護学生は、3週間（15日間）に渡って学修する。2020年度では、履修者が91人である。

コロナ禍の状況を鑑み、当該実習の方法を臨地実習主体から学内実習主体へと変更した。学内実習を主

体とした実習を組み立てる上で、実習目的・目標を達成すべく方法であること、臨床実習指導者と教員の協働による実習指導について検討を重ねた。

本稿では、第1報としてコロナ禍に対応すべく学内実習を主体とした成人看護学実習Ⅰ（慢性期看護実習）の方法について報告する。

## Ⅱ. 成人看護学実習Ⅰ（慢性期看護実習）の目的・目標，学習内容

成人看護学実習Ⅰ（慢性期看護実習）の目的は、「慢性期にある成人期の患者および家族を包括的にとらえ健康状態の変化に即した適切な看護を実践する能力を養う」である。到達目標を表1に、学習内容を表2に示した。

表1 成人看護学実習Ⅰ（慢性期看護実習）の実習目標

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. 慢性期にある患者の身体的・精神的・社会的な特徴を理解できる。</li><li>2. 慢性期にある患者とその家族を理解することができる。</li><li>3. 患者のQOLを尊重し、セルフケアの維持・向上に向けた援助を実践できる。</li><li>4. 患者および家族の疾病・障害の受容、疾病コントロールのための行動変容プロセスの支援について理解できる。</li><li>5. 慢性期の患者に必要な社会資源の活用について理解できる。</li><li>6. 医療チームの一員としての看護者の役割と他職種との連携のあり方を考え、看護学生として責任ある行動をとることができる。</li><li>7. 実践した看護体験を総括し、自己の学習課題を明確にすることができる。</li></ol> |
|--|

表2 成人看護学実習Ⅰ（慢性期看護実習）の学習内容

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. 慢性期にある対象の身体的・精神的・社会的な特徴の理解</li><li>2. 変化しやすい状況にある身体的アセスメント、障害部位と機能障害に対する身体的・精神的苦痛</li><li>3. 健康レベルと予後、受容過程、社会的役割への影響</li><li>4. 治療・検査を受ける患者の理解</li><li>5. 苦痛や不安を軽減するための援助</li><li>6. 患者のセルフマネジメント能力を高めるための援助</li><li>7. 家族・近親者に対する援助</li><li>8. 医療チームにおける協働の重要性の理解</li></ol> |
|---|

これらの目的・目標，学習内容が学内実習主体であっても達成できるよう，実習方法について検討した。

## Ⅲ. 成人看護学実習Ⅰ（慢性期看護実習）の方法

### 1. 変更前の実習方法

#### 1) 実習期間

実習期間は3週間（15日）であり，臨地実習の日数が12日で，学内実習が3日である。

#### 2) 実習方法

実習施設は6病院である。1グループ約5人の実習グループを編成し，6病院の実習病棟にグループを配置

する。学生一人一人が、慢性期疾患をもった1人の入院患者を受け持ち、その患者の看護過程の展開（情報収集・整理、アセスメント、看護問題の抽出、看護計画の立案と実施、評価）を通して看護実践基礎能力を養う。定期的なカンファレンスを通して実習メンバーの受け持ち患者の看護内容について情報交換し理解を深める。臨床実習指導者や担当教員の指導を受けながら、看護過程を展開していく。

### 3) 3週間の実習の展開

1週目では、月曜日の実習初日を学内実習とし、病院・病棟オリエンテーションを行う。学生は受け持ち患者の情報（疾患名、既往歴、入院目的等）を得て疾患・検査・治療・看護の事前学習を行い、翌日からの臨地実習に臨む。火曜日から金曜日は臨地実習であり、おもに受け持ち患者の観察（バイタルサイン測定等）や病棟看護師とともに日常生活の援助を行う。受け持ち患者の情報を収集し、情報の分析・解釈により看護問題を抽出する。受け持ち患者の観察（バイタルサイン測定等）や日常生活の援助は1週目から3週目を通して行う

2週目は、おもに看護問題を明確にし、看護計画を立案する。看護計画に基づいて看護ケアを実施し、評価をしていく。水曜日を学内実習とし、実習記録の追加修正を行い、看護計画立案までの思考過程を整理する。

3週目では、おもに看護計画の実施、評価を行い、看護計画の修正をして、修正した計画を実施し、評価する。退院後の療養生活を見据えたセルフケアの援助を行う。金曜日の実習最終日を学内実習とし、3週間の実習のまとめを行う。実習記録の整理や担当教員との面接を通して実習の学びと今後の自己の課題を明らかにする。

## 2. 臨地実習から学内実習主体へ変更した実習方法

### 1) 実習期間

実習期間は変更前と同じ3週間（15日）とした。臨地実習の日数を12日から1日に減らし、学内実習を3日から14日に増やして学内実習主体にした。

### 2) 実習方法

実習施設を6病院からA病院とB病院の2病院にし、A病院の4棟とB病院の1病棟に実習グループを配置した。慢性期疾患をもった1人の入院患者を受け持ち、その患者の看護過程の展開（情報収集・整理、アセスメント、看護問題の抽出、看護計画の立案と実施、評価）を通して看護実践基礎能力を養うために、実際に入院している患者の情報を得て、その患者の看護過程の展開を行う内容にした。看護計画に基づいた日常生活援助とセルフケア指導の看護実践を学内において実施し、臨床実習指導者と教員の協働による実習指導法を検討し、実習展開に組み入れていった。

### 3) 学内実習主体の実習展開

学内実習主体に変更する上で、実習目的・目標を達成するための臨床実習指導者と教員の協働による実習指導を重点課題とした。成人看護学実習直前に学内において臨床実習指導者と教員との連携による看護技術チェックをした横井ら<sup>10)</sup>によると、学生は実習直前に看護技術チェックを通して臨床実習指導者と面識を持つことが、緊張ともなり得るが、自己表現ができる機会になることや、実習場の情報を早期に収集し実習に対する安心や臨床実習指導者との関わりに安堵感を得ていた。臨地実習事前からの臨床実習指導者からの指導は、学習成果に影響すると考えられた。

成人看護学実習を履修する84人の学生に対してストレス調査を実施した重岡ら<sup>11)</sup>は、成人看護学実習

は医療分野が広く高度な専門性が問われるため、実習前のストレス感情や不安状態を示す得点が高かった、と報告している。成人看護学実習を履修する32人の学生を対象にストレス状態を調査した高島ら<sup>12)</sup>によると、ストレス感情である脅威は実習前日が最も高く、その後有意に低下していた。これらから、成人看護学実習を直前に控えた学生は高いストレス状態にあると言える。

さらに、2020年度の成人看護学実習Ⅰ（慢性期看護実習）を履修する学生の中には、基礎看護学実習Ⅱの臨地実習の中断を余儀なくされ学内実習に切り替わった学生がいた。実習病院が、新型コロナウイルス感染対策により実習受け入れ困難となったためであった。そうした臨地実習の経験の少なさも考慮しながら、臨床実習指導者と教員との協働による指導のあり方を検討し、学内実習主体の実習展開を作成した。臨地実習主体から学内実習主体へ変更した実習展開を表3に示す。

表3 3週間の実習展開

曜日	火または水 <sup>*1</sup>					木	金
	実習場所	学内	病棟	学内	学内		
1週目	実習場所	学内	病棟	学内	学内	学内	学内
	午前	健康状態・出席確認 実習オリエンテーション ・実習目的・目標 ・実習内容、評価 ・健康管理、感染対策 ・個人情報取り扱い ・実習記録 ・履修上の注意 実習の心構え ・病棟オリエンテーション(DVD視聴) グループワーク ・個人情報取り扱いについて	健康状態・出席確認 病棟オリエンテーション 看護師とともに行動しながら看護体験をする	健康状態・出席確認 効果的なカンファレンスのもち方(講義・演習) 個人ワーク ・情報整理 ・身体面、心理面、社会面の特徴と全体像を捉える。 ・看護の方向性の把握	健康状態・出席確認 個人ワーク ・情報整理、分析・解釈 ・看護問題の抽出 受け持ち患者の情報収集 <sup>*2</sup> ・ZOOMを用いて学生自ら臨床実習指導者に質問する	健康状態・出席確認 個人ワーク ・情報整理、分析・解釈 ・看護問題の抽出 ・関連図作成	健康状態・出席確認 個人ワーク ・情報整理、分析・解釈 ・看護問題の抽出 ・関連図作成
午後	病院病棟オリエンテーション 誓約書作成 受け持ち患者情報受け取り 学生カンファレンス ・リーダー、サブリーダー等の役割決め	看護師とともに行動しながら看護体験をする 学生カンファレンス	個人ワーク 学生カンファレンス	個人ワーク 個人ワーク 学生カンファレンス	個人ワーク ・関連図作成 学生カンファレンス	個人ワーク ・受け持ち患者の追加情報受け取り <sup>*3</sup> ・情報整理、分析・解釈の追加修正 ・看護問題の抽出、関連図の追加修正 学生カンファレンス	
2週目	実習場所	学内	学内	学内	学内	学内	学内
	午前	健康状態・出席確認 個人ワーク ・経過情報の追加整理 ・情報の分析と解釈追加修正 ・看護上の問題修正 ・関連図追加修正	健康状態・出席確認 グループワーク ・看護問題発表準備	健康状態・出席確認 グループワーク ・看護計画について	健康状態・出席確認 学内看護実践(動画撮影) ・看護計画実施評価 ・SOAP記録	健康状態・出席確認 個人ワーク ・看護計画追加修正 ・個人面接(中間評価) ・実習記録一式追加修正	
午後	個人ワーク 学生カンファレンス ・看護問題について	グループ発表 ・看護問題について 【臨床指導者出席】 個人ワーク ・情報の分析と解釈、看護問題の追加修正 ・看護計画立案 学生カンファレンス	グループ発表 ・看護計画について 【臨床指導者出席】 個人ワーク ・看護計画の追加修正 ・日常生活援助の実施計画 学生カンファレンス	学内看護実践(動画撮影) ・看護計画の実施評価 ・SOAP記録	個人ワーク 学生カンファレンス		
3週目	実習場所	学内	学内	学内	学内	学内	学内
	午前	健康状態・出席確認 個人ワーク ・セルフケア指導案作成	健康状態・出席確認 個人ワーク ・パンフレット等作成 ・セルフケア指導実施計画	健康状態・出席確認 学内看護実践(動画撮影) ・セルフケア指導実施	健康状態・出席確認 個人発表 <sup>*4</sup> ・受け持ち患者の看護を通じた学び 【臨床指導者出席】	実習記録追加修正 個人面接(全体評価) 3週間のまとめ 実習記録一式提出	
午後	個人ワーク 学生カンファレンス	個人ワーク 学生カンファレンス	・セルフケア指導評価 ・SOAP記録 学生カンファレンス	個人ワーク ・実習記録追加修正 ・個人発表資料作成			

\*1 1週目のみ病棟と学内の実習をグループごとに交代して実施した。  
 \*2 3クール中、2クールと3クールにおいて行った。  
 \*3 3クール中、1クールにおいて行った。  
 \*4 個人発表は、1クールでは3週目の最終日の金曜日の午前中に行なった。

実習病院の看護管理者ならびに臨床実習指導者と協議し、①病棟実習前の病棟オリエンテーション、②病棟実習、③入院患者の看護過程の展開、④学内における看護実践の4項目において、臨床実習指導者と教員の協働による実習指導を強化した。これら4項目の具体的方法について次に述べる。

### 3. 臨床実習指導者と教員の協働による実習指導の取り組み

#### 1) 病棟実習前の病棟オリエンテーション

実習が始まる約1か月前に、教員が病棟オリエンテーションの視聴覚教材を作成するためA病院へ出向いた。臨床実習指導者に病棟実習初日に行っている病棟オリエンテーションの実際の動画を教員が撮影した。内容は、病棟の特徴・構造、看護体制、患者数と救護区分、病棟スタッフの人数とチーム体制、週間業務、実習で使用する物品場所と借用方法、感染予防対策と医療廃棄物の取り扱い、事故防止対策等であり、約30分間の視聴覚教材である。医療現場において臨床実習指導者による病棟オリエンテーションを視聴することで、実習に対するイメージや心構えにつながると考えた。

#### 2) 病棟実習

病棟実習の目的を次の通りとした。

1. 看護師とともに行動し、看護師が患者一人一人に合った看護をどのように実践しているかを知る。
2. 看護師が行っているケアの根拠を知ることができる。
3. 看護チームの構成メンバーとその活動を知る。
4. 一人の患者にどのような医療従事者が関わっているか、看護師は他職種とどのように連携しているのかを知る。
5. 学内での看護実践に活かすことができる看護体験とする。

これらの目的を実習病院の看護管理者ならびに臨床実習指導者に実習調整会議の中で明示し、実習指導の協力を依頼した。臨床実習指導者によるおもな指導内容として、病棟オリエンテーション（看護体制、病棟の特徴・構造、患者数、病棟スタッフの人数、週間業務、医療廃棄物の取り扱い等）、病棟看護師とともに行動しながら清潔や食事などの日常生活援助の見学・実施、電子カルテの見方、多職種との連携と看護師の役割について、カンファレンスへの出席等を依頼し、指導協力を得ている。

#### 3) 入院患者の看護過程の展開における指導

##### (1) 情報収集

1つのグループの4～5人の学生が、慢性期疾患をもつ同じ1人の入院患者の情報を収集して、看護過程を展開する実習方法とした。2病院の看護管理者ならびに臨床実習指導者の承諾を得て実施している。入院患者への看護過程展開の事前学習の一環として、実習初日に入院患者の情報を学生に提供するために、グループ担当の教員が実習初日の前週の金曜日に実習病院へ出向き、臨床実習指導者の協力を得て入院患者の情報を収集している。

入院患者の状態に変化があることや、学生が知りたい情報が出てくることが推測されたため、1週目の金曜日にグループ担当の教員が実習病院に出向き、それらの情報を収集して学生に提供した。2クール目からは臨床実習指導者の発案により、1週目の木曜日にZoomを用いた遠隔通信を介して学生自ら臨床実習指導者に入院患者の現在の状態や、知りたい情報について質問できるようにしている。

##### (2) 看護問題の抽出

学生は、担当教員の指導を受けながら入院患者の情報を整理し、分析・解釈し、関連図を描いて看護問

題を導く。さらに、グループワークを重ねながら作成した関連図を基に、看護問題を抽出するまでの思考過程を辿る。2週目の火曜日に外部講師として臨床実習指導者に来校してもらい、臨床実習指導者による学内での対面指導を依頼し、実施している。

臨床実習指導者による看護問題の指導は、次の内容を依頼し了解を得た。

- ①身体面、心理面、社会面の捉え方（統合体としての捉え方）が適切であるか。
- ②身体的側面に関する顕在的側面と障害された部位の機能を捉えているかを教員とともに検証する。機能障害及び低下があれば、実在する看護上の問題、リスクを考えた看護問題を抽出しているかを教員とともに検証する。
- ③心理的側面、社会的側面に関する情報が乏しい場合は、指導者から患者を思い描けるようなアドバイスを。患者や家族の主観的情報、看護師の知り得た客観的情報も提示する。

学生は、臨床指導者からの指導内容、提示された患者情報についてグループで話し合い、必要時、情報の追加修正、分析解釈の追加修正、看護問題を再討議する。

### **(3) 看護計画の立案**

学生は、臨床実習指導者と担当教員の指導を受けながら抽出した看護問題に対する看護計画を立案する。グループワークをしながら学生一人一人が自分で立案した看護計画を追加・修正していく。看護計画については2週目の水曜日に、看護問題の指導と同じように臨床実習指導者に外部講師として来校してもらい、臨床実習指導者による学内での対面指導を実施している。臨床実習指導者による看護計画の指導内容は、次のとおりである。

- ①看護目標（長期目標・短期目標）は、現時点の患者に適切であるか、具体的（いつまでに、何が、どのようになる）であるか、患者主体であるか、達成可能であるか。
- ②看護計画は、現時点の患者に適切であるか、具体的（いつ、どこで、誰が、何を、どのように実施するのか）であるか、修正が必要であるか。

学生は、指導を受けた後に学生カンファレンスを行い、看護計画についての意見を出し合って、追加・修正する。

### **(4) 看護実践**

学生はグループメンバーのなかで看護師役、患者役となり、学内の看護実習室において立案した看護計画に基づき看護実践する。2週目では日常生活の援助を行い、3週目ではセルフケア指導を行う。それら看護実践の場面を臨床実習指導者に見てもらうために、他のグループメンバーが動画撮影し、教員が撮影した動画を臨床実習指導者に送る。

### **(5) 個人発表について**

入院患者の看護過程の展開における自己の学びについて、個人発表を行う。学生は、入院患者の看護問題の根拠を明らかにし、看護目標を達成するための援助をどのように、何を使って、何の効果を得るために行ったかを発表する。発表会は、口頭によるコミュニケーション力、論理的思考、および批判的思考の向上が期待される<sup>12)</sup>。臨床実習指導者に出席してもらい、看護実践に対する指導を含めた講評を依頼する。学生一人一人の学びを臨床実習指導者と教員が共有し、実習指導へ活かしていく。

## **IV. まとめ**

新型コロナウイルス感染拡大は、未だ終息の見通しが明らかにされていない。感染しない・させないた

めの対策を、今後も継続することが必要不可欠である。そうしたなか、看護学生の実習病院では、実習の受け入れが困難となった病院があった。

そうしたことから、A看護系大学では成人看護学実習Ⅰ（慢性期看護実習）を臨地実習主体から、学内実習主体へ変更した。本来の実習の目的・目標を達成することや、臨床実習指導者と教員の協働による実習指導を重点課題とし、①実習前の病棟オリエンテーション、②病棟実習、③入院患者の看護過程の展開、④学内における看護実践の4項目において臨床実習指導者と協議を重ね、臨床実習指導者と教員の協働による実習指導に取り組んだ。臨床実習指導者の中には、学生の看護実践ビデオを視聴し、学生に代わり援助手法を実践し援助結果を示し評価できる関わりがあった。ついで、学生の援助実践の手法を現場の看護師の視点で思考過程の準備と実践可能性を厳しく評価するコメントなどを得ている。成人看護学実習Ⅰ（慢性期看護実習）終了後、本実習による学習の効果を精査し、第2報として報告する予定である。

## 文献

- 1) 新型コロナウイルス感染症の最新情報について（令和2年1月31日18時時点）、文部科学省ホームページ、  
[https://www.mext.go.jp/content/20200129-mext\\_kenshoku-000004520\\_44.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200129-mext_kenshoku-000004520_44.pdf)  
(2020.9.02 8:35アクセス)
- 2) 国立感染症ホームページ、  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/2487-idsc/idwr-topic/9567-idwrc-2014.html> (2020.9.02 10:20アクセス)
- 3) 新型コロナウイルスに関するQ&A、厚生労働省ホームページ、  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/dengue\\_fever\\_qa\\_00001.html#Q2-2](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html#Q2-2) (2020.9.02 12:55アクセス)
- 4) 新型コロナウイルス感染症の現在の状況と厚生労働省の対応について（令和2年9月1日版）、厚生労働省ホームページ、[https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/houdou\\_list\\_202009.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/houdou_list_202009.html) (2020.9.02 8:45アクセス)
- 5) 遠隔授業等の実施に係る留意点及び実習等の授業の弾力的な取扱い等について（令和2年5月1日）、文部科学省ホームページ、[https://www.nii.ac.jp/event/upload/20200508-7\\_Nishiyama.pdf](https://www.nii.ac.jp/event/upload/20200508-7_Nishiyama.pdf) (2020.9.02 14:30アクセス)
- 6) 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師等養成所における臨地実習の取扱い等について令和2年6月22日、厚生労働省ホームページ、<https://www.mhlw.go.jp/content/000642611.pdf> (2020.9.02 14:45アクセス)
- 7) 2020年度看護系大学4年生の臨地実習科目（必修）の実施状況調査結果報告書、日本看護系大学協議会ホームページ、<https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2020/09/202009koutoukyouiku-houkokusyo.pdf> (2020.10.24 10:10アクセス)
- 8) 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について、厚生労働省ホームページ、<https://www.mhlw.go.jp/content/000636112.pdf>  
(2020.9.02 15:15アクセス)
- 9) 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師等養成所における臨地実習の取扱い等について、文部科学省ホームページ、[https://www.mext.go.jp/content/20200624-mxt\\_kouhou01-000004520\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200624-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf)

(2020.10.24 15:50アクセス)

- 10) 横井和美, 竹村節子, 沖野良枝他 (2009) 病院・大学連携における実習指導に対する取り組み 実習指導者と連携した成人看護学実習直前の技術チェックに対する学生からの評価. 人間看護学研究. 7, 43-52.
- 11) 重岡秀子, 池本かづみ, 石崎文子他 (2016) 成人看護学実習前・後における学生が感じるストレス感情と不安状態の実態. 健康科学と人間形成. 2 (1), 17-26.
- 12) 内田雅子, 今堀昌美, 鈴木純恵他 (2006) 成人看護学実習におけるケースレポートと発表会の学習効果: 慢性期・終末期の実習を中心に. 大阪大学看護学雑誌. 12 (1), 11-22.

2020年11月6日 受理  
了徳寺大学研究紀要 第15号

